

なかよし・けんこう・どいよく

天見小校長室だより 12月号

令和6年12月1日
天見小学校

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校

「校長先生、最近、秋がなくなっちゃったねえ。」「この間まで夏だったのに、急に冬になった感じがするよねえ。」「私、秋が好きなのになあ。」登校の時に子どもたちとしゃべった会話です。子どもも感じる異常気象。天見の里は、急に寒くなりました。冬に突入という感じです。遊歩道に枯葉がいっぱい落ちています。

しかし、この寒い時期でも、天見には、凜とした空気の冷たさを感じる冬の良さがあり、これから手足がかじかむ季節もまた良いものです。今年の冬には何回雪が降るでしょうか。

「すてき」すぎる 天小まつり

11月9日(土)・・・天小まつりとオープンスクールを開催しました。

毎年、たくさんの方が、天見小学校への入学、転入学を考えてこの会に参加して下さいます。今年も20組ほどの方がお話を聞きに来て下さいました。

その後、子どもたちの様子を見ていただこうと開催しているのが、天小まつりです。それは、子どもたちの歌から始まります。私が赴任してきた2年前の春よりも数倍子どもたちの声がよく出るようになりました。高学年はきれいな高い声を響かせ、2部合唱にしてくれたりします。低学年は、元気いっぱい主旋律を歌ってくれます。高学年・低学年混ざり合っただけの天見小学生の歌声を聞くだけで、元気が出てきます。67人で歌っていますが、その歌声は100人も200人もいような元気な歌声だからです。

その声が「昨年より今年」という風にどんどんパワーアップしてきているのを感じます。音楽の鶴田先生もそう感じられるようで、「授業で歌っていても、とても楽しいのよ。」とおっしゃいます。

今回、天小まつりの最後に歌った歌がとてつもなく響き合い、体育館いっぱいに伸びてきたのを私は感じ、身体がぞくぞくっとしました。

「その声！」なんです。天見小学校の良さが一面に感じられた一瞬でした。恥ずかしがらなくていい環境、みんなが一生懸命歌える環境、自分を出せる環境、この歌でそう感じられる一瞬でした。こういう声が出てくると、教員としては、わくわくします。

子どもたちが素直に自分がだせる環境で良かったと、思いました。

今年度は、中学生も天見小学生のためにボランティアで1ブースを受け持ってくれました。こんな学校ありますか。卒業生たちが在校生のために帰ってきてくれるなんて、なんて素敵な学校なんでしょう。本当にお手伝いに来てくれた中学生には、「ありがとう」を100回言っても足りないくらい。在校生たちも、卒業生ブースを楽しんでいました。(ブースで作ったキーホルダーの中のビーズは、この春の卒業生のお母さんが「何かに使ってください。」と寄付して下さったものです。)みなさんのお気遣いと優しさがこうして実を結び、子どもたちに還元されていることが、めちゃくちゃ嬉しく、ありがたく校長としてお礼しかありません。

子どもたちもがんばりました。思うのは、わが校の天小まつりは、かなり高尚だということです。天見の良さを知ってもらうことを目的として、店の中に天見らしいことを入れないといけません。ただ、楽しいお店を作ればいいということだけではないのです。来てくださった皆さんに天見の良さがわかるお店を6年生が中心となって全学年の縦割りで作っているというのが素晴らしいではありませんか。1年生にもちゃんと、仕事の役目があって、準備も全員で作っていかねばできないことです。今年のお店もどの店も楽しかった。来てくださったお家の方が童心に帰り、夢中になって楽しんでくださっている様子も何度も見ました。もちろん私も・・・。ある店でいいところまでいったのに、1位になれず2位で、残念でした。でも夢中になって遊びましたよ。

天見地域のこと、天見小学校のことをたくさん知れるように、てくてく歩いて地元の方に教えていただいたことをクイズにして出してくれている店。天見の自然をかごで捕まえる店。天見の縦割り野菜をたくさん掘り出す店。天見の良さを天見太郎さん主演の劇で紹介する店。来た人みんな野菜を作って、天見農場を野菜でいっぱいにする店。全部の店が天見の良さをみんなに知らせるための店になっています。素晴らしいではありませんか。こんなお店、他の小学校で見たことがありません。

お家の方も、子どもたちも、卒業生も、みんなが楽しめるお店作りを、子どもたちみんなで考えてくれてありがとう。この日は、最初から最後まで、みんな大活躍でしたね。

低学年・高学年から一人ずつお店を紹介してくれた人たちもとてもいいCMでした。進行してくれた皆さんも、自分の言葉で、それぞれのお店のいいところをたくさん発表してくれたりしてくれて、とってもよかったです。



そして地域の方にもPTAの方にもたくさんお世話になりました。ヨーヨー釣りの風船はPTA役員のみなさんが用意してくださり、お祭り気分を盛り上げて下さいました。缶バッチつくりや、竹をのこぎりで切ったり、竹のけん玉を作ったり、天見小学校の子どもたちだけではできないお店を、地域の方が受け持ってくださいました。のこぎりなんてなかなか使う機会はありません。でも、このお店では、使わないまま大きくなるのではなく、のこぎりを使って木を切るという、とてもいい経験をさせていただいています。もちろん、それは、子どもたちの楽しい時間のパワーアップになっていること、経験が一つ増えていることは間違いないです。そこに卒業生のお店です。皆に天見小学校が愛され、人のつながりが感じられる学校。ぜひ、来年も卒業生にお店を出してもらいたいと、本気で思っている校長です。今年6年生のみなさん、来年は、助っ人として、天見小学校に帰ってきてくださいね。



こうして天小まつりもみんなの力を結集させて、毎年、小学生ならではの楽しい祭りを開催出来ていることが、本当に本当に、みなさんに感謝です。来年も、再来年も同じように素敵な天小まつりを作っていきましょう。同じことをしているようでも、毎年、子どもたちは年齢が一つずつ上がり、その学年により役目が変わっているのです。その成長も知ってもらえたら幸いです。

今日も外では全校遊びの楽しげな笑い声が響いています。